

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 自ら学び 自ら取り組み 自ら表現できる子どもの育成	堺市立五箇荘小学校 校長 川端 健人
--	-----------------------

令和7年度 教育目標 「地域とともに輝く子」 重点目標 「心が育つ きれいな学校」 重点課題 ①「総合的な学力の育成」学びのコンパスを踏まえた子どもが探究的に学ぶプロセスを重視した授業改善・自律的に学ぶ力を育成する家庭学習習慣の定着 ②「心の教育の推進」教育活動全体を通じた人権教育の推進・あいさつの響きあう学校に向けて『特別の教科 道徳』を要とした道徳教育の推進・読書指導の更なる充実・問題行動の早期発見・早期指導・積極的生徒指導の推進 ③「健康・体力づくりの充実」食育の推進・運動の楽しさを実感できる授業改善・健康教育の推進 ④「特別支援教育の推進」障がいの状況に応じた指導の充実・特別支援コーディネーターを核とした校内支援委員会の充実・支援学級と通常学級との交流の充実・障がいに応じた特別の指導を特別な場(通級指導教室)で受ける指導形態の設置 ⑤「家庭・地域・関係諸機関との協働」外部人材の積極的活用とPTA・地域行事への積極的参加・学校教育アンケートの実施とアンケート結果の効果的活用・幼、小、中の連携・学校群による9年間を見通したカリキュラムの編成、学校間のさらなる交流 ⑥「児童の安全確保」児童のけが、トラブルへの迅速な対応と未然防止・安全教育の充実・災害や不審者対応に向けた危機管理・安全管理体制の構築・食物アレルギー対応の徹底 ⑦「環境整備」整理整頓・清掃活動の充実 ⑧「学校力・教師力の向上」人権に関する認識を深め人権感覚豊かな教職員を目指す・組織的・継続的な校内研修の実施・ともに高め合う教師集団・個人情報保護の適正な取扱いと管理の徹底・勤務規律の遵守と健康の保持・促進
---

・昨年度、「自分の思いや考えを表現できる児童の育成～話し合い活動～」という教科研修主題で研修を行った。そして、児童の話し方、聞き方、そして、友達を発表を聞いて考えを広げる方法などについて学ぶことができた。しかし、話を自分事としてとらえず、主体的に最後まで話を聞くことができない児童もいた。また、友達の意見を聞いて、自分の考えを見つめなおす段階に届いていない児童もいた。そこで、児童の話し方、聞き方、振り返り方などの力を低学年からしっかりと身につけることを目標として、今年度の教科研修主題を「自分の思いや考えを表現できる児童の育成～話す能力・聞く能力を活かして～」とする。 ・今年度、「学習規律」を見直し、チャイム着席が確実にできるようにするために「休み時間の間に次の授業の用意をしましょう。」というきまりを付け加えた。これまでの「話す・聞くのきまり」「声のものさし」の指導も、全学年で継続して取り組む。そして、しっかりと学習習慣を身につけ、落ち着いた学習環境を整えて学習することができるように努める。	豊かな心・健やかな体の現状 ・昨年度と比較してみると、全体的に前年度より下回る種目が多いが、同一集団で比較すると1学年相応の伸びが見られる。各学年の運動に対する得手不得手の特徴が出ている。全体的に、堺市平均値とは差異はないが、長座体前屈の記録が全体的に低い傾向にあるため、準備運動等で柔軟を取り入れ、継続的に取り組んでいきたい。 ・体育の運動で体を動かすことが好きになった児童が上昇傾向にある。体を動かすことが好きな児童が減らないように、体育以外でも体を動かす場や楽しさを広げていく必要がある。積極的に体育館開放など、運動す場や機会を広げていく。 ・体力づくりにおいて、日常活動できる場面を作り、たてわり班で活動するなど楽しみながら体力向上につながる運動ができるようにし、全体的な体力の底上げをめざし、体力向上に取り組んでいく必要がある。
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (年度途中)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	豊かな学び	自分の思いや考えを表現できる児童の育成～話す能力・聞く能力を活かして～	★教科研修主題「自分の思いや考えを表現できる児童の育成～話す能力・聞く能力を活かして～」に向けて学校群の合同授業研究を行い、討議会も五箇荘学校群の全職員で行う。★夏季研も学校群合同で行う。 ●教科研修主題の実現に向けて、児童の話す能力・聞く能力を活かせるように低・中・高学年別に実態を調査、授業改善の検討を重ね、児童の思考や表現に生かせる授業展開を考え、日々の授業に取り組む。	・研究授業の実施回数 ・全職員で実施できている	実施状況 授業観察 研修でのふりかえり	2月初旬 毎月2月初旬	◎ ○	◎ ○	学校群の取り組みが進んでいることには、引き続き大いに期待している。小学校と中学校で相互に影響し合いながら、ともに授業力を高めていただくことが、子どもたちの学力向上にもつながる。引き続き取り組みを続けてほしい。
	静謐な学習環境	学びに向かう姿勢の確立	学習規律(授業の準備・チャイム着席・下じきを使う・定規を使う・名前を丁寧に書く)を定着させる。 話す・聞くのやくそく(話を最後まで聞く・話し手の目を見て聞く・場に応じた声の大きさで話す・はい…です(ます)と言う)を定着させる。	・児童アンケートで「学習規律を守っている」の肯定的回答が85%以上になる。 ・児童アンケートで「話すとき・聞くときの約束を守っている」の肯定的回答が85%以上になる。	状態についての協議 児童アンケート 授業観察	毎月12月頃 毎月12月頃	○ ○	◎ ○	学校として真摯に取り組んでくれている成果が、アンケート結果にもよく表れている。引き続きこれからもこの取り組みを継続していただきたい。
豊かな心・健やかな体	体力の向上	体力向上をめざした授業研修	時期ごとに、児童が意欲的に取り組めるような運動例を全職員で共有し、体育科の授業向上を図る。	・児童アンケートで「体育の運動で、体を動かすことが好きになった。」の肯定的回答が85%以上になる。	状態についての協議 授業アンケート 授業観察	毎月12月頃	○	○	引き続きたくさんの活動を通して、子どもたちの体力向上につなげてほしい。学校群として、中学校での陸上部や水泳部の活動が目覚ましいところは、小学校からの積み上げもあるのかもしれない。
		体力向上につながる授業実践と行事の計画	過年度の結果をもとにして、各学年の苦手種目の動きを高めるための運動を年間を通して行う。 全児童が参加できる運動が中心となるような体育的行事を計画し取り組む。	・全学級で実施できている。 ・昨年度の体力テストの結果よりも向上が見られる。 ・全学級で実施できる体育的行事を実施している。	状態についての協議 体力テスト 授業観察	毎月12月頃 2月初旬	○ ○	例年通り(コロナ前)新体力テストを実施。半分以上の種目で、堺市平均を上回る数値であった。 体育的行事として、体育大会や水泳が実施できた。また、五箇荘ランド(体力向上イベント)を行った。	
	自尊感情の育成	人を思いやるきれいな心を育む	各学年の実態に応じ、道徳や学級活動で互いの良さを認め合う取り組みを行う。 全職員がいじめ防止に対する知識を持ち、児童が安心して登校することができる学級環境をつくる。道徳や学級活動でいじめ問題、上手な友達のかかわり方など、他者理解につながる取り組みを行う。 なかよし活動(異年齢交流)を毎月1回行い、助け合う心、思いやる心を育む。	・全学級で実施できている。 ・全学級で実施できている。 ・実施できている。	状態についての協議 授業観察 生活アンケート 授業観察 状態についての協議 児童の様子	毎月12月頃 毎月12月頃 毎月12月頃	○ ○ ○	◎ ○ ○	学校として教職員全体で取り組む姿勢は、これからも続けてほしい。心を育てることはとても大切。生活アンケートの実施はよいと思う。引き続き実施し、子どもたちの様子をよく見守っていただきたい。 いじめについても、未然に防いだりすぐに相談に乗っていただいたり、教職員全体で体制を整えていただいている。引き続きよろしくお願ひしたい。
地域協働	地域の育成	自ら進んであいさつする子を育てる	児童会が中心となり、児童への啓発を行い、校区交通指導員やPTA安全見守り隊の方へ感謝の気持ちを伝える場面としてのあいさつについて考える機会を設けるなど、進んであいさつをする子を育てる。	・対面式とあいさつ運動の実施 ・児童アンケートで「すすんであいさつをしている」の肯定的回答が85%以上になる。	実施状況 児童アンケート	12月頃	○	◎	地域の子どもたちは、現実として少なくなってきた。それでも子どもたちはやはり地域の宝であり、みんなで大切に育てていきたい。
	地域活用	地域人材を活用した学校への支援体制をつくる	コミュニティスクールコーディネーターや教育ボランティアによる教育活動への参画ならびに授業支援の実施。	・全学年で実施できている。	実施状況	毎月2月頃	○	◎	今後は、校区同士で協力したり合併したりするという方法もあるのかもしれない。いろいろな方法を模索することも大切である。

校長より(年度末) 重点目標「心が育つ きれいな学校」のもと、授業力の向上、静謐な学習環境の整備、自尊感情の育成等に取り組む、すべての項目において、目標を概ね達成することができた。来年度はこの重点目標を基盤として、より児童の学びや自立に焦点化した目標を設定し、教職員・保護者・児童でめざす児童像を共有し、教育活動の充実を図っていきたい。 また五箇荘学校群として、必要に応じ、3小1中合同授業研究や合同夏季研修、小学校各学年児童の交流、小中連携、保護者進路説明会など様々な取り組みを行った。引き続き、学校群の利点をいかし、児童や教職員にとって必要な取組を推進していきたい。 保護者を含む「地域協働」においても、機会を捉え、概ね取り組むことができた。学校アンケート結果を受け、学校教育・家庭教育に関する関心を高めることができるよう引き続き啓発等を行ってきたい。今後も教育目標である「地域とともに輝く子」の育成に教職員一丸となってさらに邁進していきたい。	学校関係者評価者から(年度末) 学校全体の取り組みや学校アンケートの結果からは、様々な取り組みの成果が表れており、とてもよくやっていたと感じる。教職員の皆様の日ごろからの努力が成果となり、大変感謝している。今後も、課題に向けた学習活動の計画や研究、実践を行い、地域・家庭と協働をより深め、良い学校づくりに努力されることを期待する。また働き方改革の観点からは、児童や教職員の数が減ることも考慮しつつ、子どもたちにとって大切なこととのバランスを考えながら進めていくことが望まれる。 保護者の家庭学習への関心の減少は気になった。保護者間で声かけが必要。また、学校・家庭ともに、スマホ・ネットの利用は面倒を見ていくべき。保護者も積極的に啓発していく必要性を感じる。
---	--